

# Chalk はなぜ不可算名詞なのか

—— 日本語と英語における「部分と全体」の捉え方について ——

塩 濱 久 雄

キーワード：英語、可算名詞・不可算名詞、日本語

## 0. はじめに

私たちは通例、中学校に入って英語を習い始める。そして、英語には可算名詞と不可算名詞の区別がある、ということを知る。その際、教室にあるもので言えば、desk や chair が可算名詞であるということは、もちろん素直に理解できた。そして、water や air が不可算名詞であることも理解できた。しかし、chalk が不可算名詞であるということには、違和感を覚えた。可算名詞であると思えたのである。もちろん、paper, soap などに関しても同様であった。

筆者は過去に、修士論文 ‘Countables and Uncountables’ (1980)、「名詞の Countability について」(1982)、『可算名詞・不可算名詞』再訪：唯脳論の観点から」(1990)の三篇において、可算名詞と不可算名詞の区別について考察を加えてきた。本稿においては、chalk のように、日本語話者から見て、不可算名詞であることが疑問に思える名詞に関して、なぜそう思えるのかを考え、さらに、その原因と筆者が考える日本語と英語における「部分」と「全体」の捉え方の違いについて考察する。

結論を先に述べれば、日本語では、目の前にある半分くらいの長さになっている筆記具の「チョーク」と呼ばれる物体を、それ以前の新品のときや、もう少し長かったときや、もっと短くなったときのその物体とは無関係に「チョーク」と言語化していて、それが固体として一定の形を保持しているうち（二本、三本と数えられるうち）は、可算名詞として考えるのである。もちろん、「可算名詞として考える」のは、英語の可算名詞と不可算名詞の区別を踏まえてのことで、本来日本語にこの区別があるわけではない。

それに対して、英語の chalk は、その他の場面における chalk（例えば、「白亜」と呼ばれる石灰岩などの場合など）と関連付けて言語化されているのである。そして、ある具体的な形を有する、私たちが教室で目にするあの「チョーク」を指す場合には、その一形態と捉えて a piece of chalk などというのである。つまり、「同じもの（＝同じ名前と呼ばれるもの）の一形態」と捉えるのである。

一般的に英語で可算名詞と思われている名詞でも、その一部分（＝一形態）だけを指す場合

には不可算名詞扱いになる。たとえば、apple のような果実の場合、丸い形の 1 個の果実は可算名詞であるが、そのひとかけらの果肉を指す場合には a piece of apple などとすることができる。つまり、果肉だけの場合は apple は不可算名詞なのである。Pencil（鉛筆）も一般的には可算名詞であるが、その長さがある程度変化しても依然 pencil であるので、その意味では chalk と同じである。そこで、a piece of pencil という言い方もできる。

Although a piece of pencil about two centimetres long could not be removed, Behrbohm said it does not pose a danger.

<http://news.therecord.com/News/CanadaWorld/article/225423>

ただし、chalk の場合には「粉」になっても chalk であるが、pencil の場合にはそうではない（pencil は粉状になれば、芯は lead になる）ので、両語の「不可算名詞である程度」は異なるということになる。

Water などの液体や air などの気体は、chalk と同様なのであるが、一定の形態を保持しないので、日本語でも「ひとつ、ふたつ」と数えられる状態にならないため、water や air が不可算名詞であると教わっても、私たちは違和感を持たないのである。

言い換えれば、英語では、「部分」（ある場面における chalk）が「全体」（いろんな場面における chalk）との関係において捉えられているが、日本語では「部分」が「全体」との関係においてではなく、「部分」それだけで捉えられているので、日本語話者と英語話者と、いわゆる「物質名詞」の捉え方が異なってくるのである。

## 1. 部分と全体

日本の航空会社のコマーシャルで、「飛行機で行きたい日本」という表現があったとする。私たちはこの場合の「日本」を、「（空路が通じている）日本各地」と理解し、「アメリカから飛行機で韓国ではなく日本に行く」といった場合の「日本」と同じようには解釈しない。つまり、「日本」は「日本の面積は37万平方キロメートルである」と言った場合のように「日本国全体」を指すことができると同時に、「日本国の一部分」を指すこともできるのである。

また、「（曇り空であったが）雲が切れて青空がのぞいた」とか「あちこちに青空が見えた」などといった場合の「青空」は、「今日は空一面きれいな青空だ」といった場合の「青空」とは、「部分と全体」という観点からすると異なるものであるが、日本語ではどちらの場合も「青空」である。英語では、「部分」の場合には a piece of the blue sky などと表すことができる。次例参照。

空には薄い雲がまんべんなくかかっている。青空はどこにも見えない。『カフカ』

The sky's covered with clouds, not a speck of blue in sight. (61)

次例は、滝の内側に入って、空の方向を見上げている場面の描写である。

You gaze up from such depth along two sheets of water - one just above you, pouring down its fearful path with the noise of a thunder peal, and another beyond leaping from a projecting shelf which seems to you more like an outlet of the clouds than an earthly level, - to look up and see only a piece of the blue sky, and be walled in apparently by rocks reaching up to it, it is awful. It is a place for man to fall down and confess himself a worm.

<http://www.catskillarchive.com/misc/boston1826.htm>

また、「一生」を『大辞林』で引くと「生まれてから死ぬまで」とある。しかし、たとえば、20歳の人が、何かプレゼントをもらって「ありがとう、一生大事にするよ」という場合、この「一生」は「生まれてから死ぬまで」ではなく、「20歳から死ぬまで」である。英語にすれば、the rest of one's life である。この場合は、上の空間に関する二例とは異なり、時間に関して「部分」と「全体」の区別がなされていない例と言える。次例参照

「もし私が一生濡れることがなくて、一生セックスができなくても、それでもあなたずっと私のこと好きでいられる？」『ノルウェイ』（下185）

“What if I never get better? What if I can never have sex for the rest of my life? Can you keep loving me just the same? (239)

（コメント）

「もし私が一生濡れることがなくて、一生セックスができなくても」が What if I never get better? What if I can never have sex for the rest of my life?（もし私が良くならなかつたらどうする？残りの人生においてセックスができなかつたらどうする？）と訳されている。

以下、いくつかの項目に分けて、この「部分」と「全体」の関係が、日本語と英語とでどのように異なっているかを例示する。ただし、項目分けは恣意的なもので、二つの項目にわたるものや、どちらでもよいものなどがある。例文は筆者が平行して行なっている、「村上春樹を英語で読む」という研究の際に収集したものからのものである。例文の末尾の『 』には引用もとの単行本、または文庫本のタイトルが、「 」には作品名が記されている。ページ数は、作品名の後の場合はそれが収録されている短編集のページである。なお、本稿は横書きのため、原文の漢数字を一部アラビア数字に変更したことがある。

## 2. 「空間」

最初の二つの例では、日本語では、「町、街」がその一部分を表しているにもかかわらず、「町、街」と全体を表す語が用いられている。しかし、英語では a(one) part of the city (町の一部分)、と訳されている。本項では、そのように空間的に見て「部分」と「全体」の捉えかたが、日本語と英語とで異なっている例を集めた。

(1) そこはナカタさんの見たこともない町だった。『カフカ』(上259)

This was a part of the city he'd never seen before. (130)

(コメント)

英訳では「町」が a part of the city となっている。ナカタさんが見ているのは、「町」全体ではないからである。この例から、日本語の「町」は「町の一部分」を指すことができることがわかる。ただし、次例の場合、原文の「東京の街を見る」の「東京の街」は英訳では「全体」と捉えられている。

(参考例)

僕は東京の街を見ながら、中国のことを思う。「中国行きのスロウ・ボート」『象』(319)

I look at Tokyo and I think China. (238)

(コメント)

この場合の「東京」は、「中国」という国家と対比されているので、「一部分」とは捉えられていない。

(2) 車のヘッド・ライトが鮮やかな光の川となって、街から街へと流れていた。「螢」『螢』(44)

The headlights of the cars were a brilliant stream of light from one part of the city to another. (246)

(コメント)

上例と同じく、この場合の「街」は「街全体」ではなく、その一部分を指すので、英語では one part of the city と訳されている。

ちなみに、引用もとの「螢」は後に『ノルウェイの森』に組み込まれるが、この部分は変更されていない。そして、「螢」は Philip Gabriel 訳であるが、『ノルウェイの森』には二つの英訳があり、ひとつは Alfred Birnbaum、もうひとつは Jay Rubin によるものである。以下にこの二人の訳を示す。

(参考例)

Rivers of car headlights poured between one center and another. (Birnbaum)

Car headlights flowed in brilliant streams from one pool of light to the other. (Rubin)

(コメント)

前者では one center and another (ひとつの中心から別の中心へ) と訳され、後者では、from one pool of light to the other (ひとつの光の溜りからもうひとつの光の溜りへ) と訳されている。

(3) 僕は山の中で大島さんに裸の身体を見られたことを思い出して、顔がもっと赤くなる。

『カフカ』(上469)

I remember how Oshima saw me buck naked up at the cabin, and blush even more. (232)

(コメント)

「僕」は「山の中の小屋」にいるのであるが、それを原文は「山の中で」と表現している。これではあまりにも漠然としていると訳者が考えたためと思われるが、at the cabin (山小屋で) と訳されている。つまり、原文は「山の中」で「山の中の一部」を表しているのである。

(4) そして僕らは足場の悪い坂道を注意深く降り始める。長い急な坂道を半分ばかり下り、大きく角を曲がって森を抜けたところで、その世界は出し抜けに僕らの目の前に出現する。

『カフカ』(下414)

I follow them carefully down the tricky, slippery slope. We get about halfway down, then, turn a corner and cut through some trees, and all of a sudden a world opens up below us. (435)

(コメント)

この部分は、森の中を歩いている場面の描写であるが、「森を抜けた」が cut through some trees (何本かの木の間を通り抜けた) と訳されている。つまり、「森の一部分を通過して森の外へ出た」という過程を原文は「森を抜けた」と表現しているのである。

(5) ナカタさんは言われたとおり、冷蔵庫の左側のアヴォカド・グリーンの扉を開けた。ナカタさんの背丈より高い冷蔵庫だった。扉を開けると、かたんという乾いた音を立ててサーモスタットのスイッチが入り、モーターがうなりを上げ始めた。『カフカ』(上292)

Nakata did as he was told. The avocado green refrigerator was taller than he was, and when he opened the left door the thermostat came on with a thump, the motor groaning to life. (147)

(コメント)

「冷蔵庫の左側のアヴォカド・グリーン」の扉」とあると、「左側の扉だけがアヴォカド・グリーン」ともとれるが、そのような冷蔵庫はふつうではない。そこで訳者はまず avocado green refrigerator と訳し、そして he opened the left door としたものと考えられる。つまり、原文では、「全体」がアヴォカド・グリーンの冷蔵庫の「部分」である「左の扉」だけに対して「アヴォカド・グリーンの扉」を用いていると訳者は考えたのである。

(6) 彼は九九パーセントまで完璧にやったのよ。でも一パーセントが、たったの一パーセントが狂っちゃったのよ。『ノルウェイ』(下33)

He got me ninety-nine percent of the way there, but the other one percent went crazy. (160)

(コメント)

「一パーセント」が the other one per cent (残りの一パーセント) と訳されている。これは上であげた「一生」の例と同様である。

(類例1)

『言いにくいったって、あなたそこまで言ったんだもの、全部おっしゃいよ』『ノルウェイ』(下27)

“Well, you’ve gone this far, you have to tell me the rest.” (158)

(コメント)

この場合の「全部」は「残り(全部)」なので、the rest (残り) と訳されている。

(類例2)

それから五日ばかり、淳平はほとんど外に出ることなく、机に向かって腎臓石の話を書き続けた。「日々移動する腎臓のかたちをした石」『東京』(167)

For the next five days, Junpei hardly left the house; he stayed at his desk, writing the reset of the story of the kidney-shaped stone. (325)

(コメント)

「話」が the rest of the story (話の残り) と訳されている。これは、すでにこの物語は一部書かれているからである。

(類例3)

そのような全体像が見えてくると、あとの物語を書くのは比較的簡単だった。「日々移動する腎臓のかたちをした石」『東京』(170)

Once the rest of the story had become visible to him, writing it out was relatively easy. (326)

(コメント)

上の(類例2)で述べたように、この物語はその一部がすでに書かれているのであるが、この場合の「全体像」を訳者は「残り」ととったので、the rest of the story と訳し、「あとの物語」はその the rest of the story のことととり、it と訳したものと思われる。

(類例4)

「ねえ、最初からゆっくり説明してくれる？」『カフカ』(上154)

“Hey, would you tell me the whole story, from the beginning?” (80)

(コメント)

原文には「最初から」としか書かれていないが、実際には「最初から最後まで」の意味である。英文を和訳すると、「話し全体を初めから話してくれる？」と訳されて、the whole story が追

加されている。

(7) 机の前の壁にはカレンダーが貼ってあった。写真も絵も何もない数字だけのカレンダーだった。カレンダーは真っ白だった。書きこみもなければ、しるしもなかった。『ノルウェイ』(上87)

On the wall above the desk hung a calendar, one without an illustration or photo of any kind, just the numbers of the days of the month. There were no memos or marks written next to any of the figures. (40)

(コメント)

「カレンダーは真っ白だった」は訳出されていない。「数字だけのカレンダー」が「真っ白」であるということを直訳しても不自然であると訳者が考えたものと思われる。しかし、日本語では、予定などがまったく書かれていないカレンダーに関して「カレンダーは真っ白だった」と表現するのは普通のことである。つまり、文字などが書かれる場所(部分)に何もかかれていなければ「カレンダーは真っ白」なのである。逆に、「カレンダーは真っ黒」であれば、「予定が詰まっていること」を表す。ただ、「カレンダーは白だった」と強調語「真」を取れば、「地の色が白のカレンダー」を表すと考えられる。

つまり、「真っ白」にせよ「白」にせよ、カレンダーの「部分」を指しているにもかかわらず、「カレンダー」を用いているのである。

また、「書きこみもなければ、しるしもなかった」は There were no memos or marks written next to any of the figures (どの数字の側にも書き込みや印は書かれていなかった) と訳され、next to any of the figures が追加され、場所が特定されている。(⇒(6) 限定)

(8) その出来事があったのは、私が一人部屋にいたときでした。「品川猿」『東京』(204)  
I was living in one of those single rooms when this all happened. Willow (343)

(コメント)

この寮に関する記述からすると、「一人部屋」は複数あるはずなので、「一人部屋」が one of those single rooms (一人部屋のひとつ) と訳されている。

(類例1)

舞踏場からは黄色い光とオーケストラの演奏するジャンプ・ナンバーが花粉のようにまわりにこぼれ落ちていた。「踊る小人」『象』(346)

From the dance hall, yellow light spilled out onto its immediate surroundings like so much pollen, and one of the orchestras was playing a jump tune. (262)

(コメント)

この部分の前で、「オーケストラ」は二つあると書かれているので、one of the orchestras と訳



されている。

(類例 2)

僕は 1 ページ目から順番に新聞を読んでいく人間なので、その象消滅の記事に行きあたるまでにかなりの時間がかかった。「象の消滅」『象』(404)

I'm one of those people who read the paper from beginning to end, in order, so it took me a while to get to the article about the vanishing elephant. (308)

(コメント)

「1 ページ目から順番に新聞を読んでいく人間」は他にもいると考えられるので、one of those (…のうちの一人) と訳されている。

(類例 3)

しかしそれと同時に、どれだけの時間を経ようと、途中で何が起ころうと、決して忘却することのかなわないものがあります。すり減らない記憶があります。かなめ石のように自分の中に残るものがあります。私にとっては、あの森の中で起こった事件がまさにそうなのです。『カフカ』(上203)

But still, no matter how much time passes, no matter what takes place in the interim, there are some things we can never assign to oblivion, memories we can never rub away. They remain with us forever, like touchstone. And for me, what happened in the woods that day is one of these. (104)

(コメント)

英文最後の一文を和訳すると、「私にとっては、あの日森の中で起こったことはこれらのひとつだったのです」となるが、筆者の読みでは、「まさにそうなのです」には、この one of these の意味はない。

(9) 昼間のほとんどの時間を体育館と図書館で過ごしているわけだが、そこにいるかぎり、誰も僕のことを気にかけたりしない。学校をさぼる子どもはまずそんなところにはいかないからだ。(上123)

So most of the day I'm in the gym or the library. As long as I'm in one of those two, nobody seems to worry about me. Chances are pretty slim a kid skipping school would hang out in either one. (63)

(コメント)

「そこ」が one of those two (その二つのうちのひとつ) と訳されている。また、「そんなところ」が either one (どちらか) と訳されている。



(10) 大学は解体なんてしなかった。大学には大量の資本が投下されているし、そんなものが学生が暴れたくらいで「はい、そうですか」とおとなしく解体されるわけがないのだ。『ノルウェイ』(上100)

The universities were not so easily “dismantled”. Massive amounts of capital had been invested in them, and they were not about to dissolve just because a few students had gone wild. (47)

(コメント)

学生全員が暴れたわけではないので、「学生」が a few students (数人の学生) と訳され、学生「全体」ではなくその「一部分」であることが英訳では表現されている。

(類例1)

彼は寮の規則なんかたいして気にしないで好きに暮らしていた。『ノルウェイ』(上75)

He was not going to let a few rules bother him. (35)

(コメント)

英文を和訳すると「いくつかの規則には自分を邪魔させないつもりだった」、つまり、「従うつもりのない規則がいくつかあった」ということになる。寮の規則の多くには、無意識にであれ、彼は従っているはずで、彼にとって不都合な規則がいくつかあり、それに従わないことがある、という考えがこの訳文の背後にはある。

(類例2)

突撃隊がいてくれたらなあと僕は残念に思った。あいつさえいれば次々にエピソードが生まれ、そしてその話さえしていればみんなが楽しい気持ちになれるのに、と。『ノルウェイ』(上266)

I thought, If only Storm Trooper were still around! That guy could inspire a string of stories. A few of those would have made everybody feel good. (129)

(コメント)

「その話」が A few of those (その中の少し) と訳されている。

(11) 樹木の枝に鳥たちの姿が見える。しかしあたりに風はない。『カフカ』(下89)

There are birds on some of the branches, but no wind to speak of. (281)

(コメント)

実際には「一部の枝」に鳥が止まっているはずなので、「樹木の枝」が some of the branches (枝のうちの何本か) と訳されている。

(類例1)

歯も折れているようだった。『カフカ』(上409)

Some of his teeth looked broken. (204)

(コメント)

「歯」が some of his teeth (歯の何本か) と訳されている。

(12) 「ねえ、僕には僕という人間をうまく君に説明することはできない」「中国行きのスロウ・ボート」『象』(308)

“There are some things about myself I can’t explain to anyone.” Elephant (231)

(コメント)

英文を和訳すると「自分自身に関して、誰にも説明できないことがいくつかある」となる。原文の「僕という人間」が「僕に関するいくつかのこと」と訳されているのである。

(13) そして六時から十時半まで店番をしてレコードを売った。店の外を雑多な種類の人々が通り過ぎていくのを僕はそのあいだぼんやりと眺めていた。『ノルウェイ』(下40)

I minded the store from six o’clock to ten-thirty and sold a few records, but mainly I sat there in a daze, watching the incredible variety of people streaming by outside. (164)

(コメント)

「レコードを売った」が sold a few records (数枚のレコードを売った) と訳されている。筆者の読みでは、「レコードを売った」は、言い換えれば「(六時から十時半まで店番をして) レコードを売るという仕事をした」である。英語版はより「部分的な」訳になっている。

(14) 目は酔払ったみたいに赤く血ばしっていて、深く息をすると鼻がかすかに膨らんだ。彼はもうびくりとも動かず、緑が話しかけても返事をしようとはしなかった。『ノルウェイ』(下85)

His eyes were bloodshot as if he had been drinking, and each time he took a deep breath his nose swelled the slightest bit. Otherwise, he didn’t move a muscle, and he made no effort to reply to Midori. (187)

(コメント)

「彼はもうびくりとも動かず」とあるが、この前の部分に「深く息をすると鼻がかすかに膨らんだ」とあるので、全身(＝全体)を考えると「びくりとも動かず」ということはないので、英訳では Otherwise, he didn’t move a muscle (それ以外ではひとつの筋肉も動かさなかった) と訳されている。

(15) うす汚れたビル、名もない人々の群れ絶え間のない騒音、身動きの取れない車の列、灰色の空、空間を埋めつくす広告板、欲望と諦めと苛立ちと興奮。「中国行きのスロウ・ボート」『象』(319)

The dirty facades, the nameless crowds, the unremitting noise, the packed rush-hour trains, the gray skies, the billboards on every square centimeter of available space, the hopes and resignation, irritation and excitement. (238)

(コメント)

「ビル」が façade と訳されているが、この語は『プログレッシブ英和中辞典』によると、「(建物の堂々とした装飾的な) 正面；(街路などに面した) 前面」である。つまり、この場面で目にしているのは、「建物の正面」である、つまり、「ビル全体」ではなく、「部分」であるという考え方がここに現れている。

また、「空間を埋めつくす広告板」が the billboards on every square centimeter of available space (利用できるすべての空間にある広告板) と訳されている。つまり、この場合の「空間」は不特定の「空間」ではないのである。(⇒6)

(16) 「うん、学費を払わなくちゃならないもんね」『カフカ』(下97)

“To help pay tuition.” (285)

(コメント)

原文はアルバイトをしている理由を述べているのであるが、「学費を払わなくちゃならないもんね」が To help pay tuition (学費を払う一助として) と訳されている。

(参考)

(1) 「みんな」の「部分と全体」

次の例では (i) (ii) とともに原文で「みんな」が用いられているが、(i) の訳は everybody else、(ii) の訳は everyone となっている。これは、(i) の場合には、「(受験する) 全員」の中で、その「一部分」である「僕」だけが、別の会場を指定された、ので「みんな」が everybody else (その他の全員) と訳され、else が追加されているが、(ii) の場合には「指された僕」と、その他の「見ている生徒」とは別の集合になっているので、else はない。(iii) は、同じ訳者 (Alfred Birnbaum) による別の作品からの例であるが、「クラス」の中での出来事で、「僕」と「みんな」は同じ集合に属しているので、この場合の「みんな」は everyone else となっている。(iv) は (iii) と同様であるが、訳者は Jay Rubin である。(v) は「自分のすること」が「みんな」を不思議がらせたので、「じぶん」と「みんな」は別集合になるので、everyone になる。訳者は Alfred Birnbaum である。

(i)

会場は幾つにも分かれていたのだけれど、僕の学校から中国人小学校に行くようにと指定されたのは僕一人きりだった。理由はよくわからない。おそらく何かの事務的な手違いがあったのだろう。クラスの連中はみんな近くの会場に指定されていたのだから。「中国行きのスロウ・ボート」『象』(295)

Out of several test locations, the Chinese elementary school was the farthest away, and I was the

only one in my class assigned there. A clerical mix-up, maybe? Everybody else was sent somewhere closer. Elephant (221)

(ii)

「例えばあなた」彼は実に僕を指さした。僕の受験番号がいちばん若いせいだった。「嬉しいですか？」みんなが僕を見ていた。「中国行きのスロウ・ボート」『象』(299)

“For instance, you,” he said, turning to point right at me, me with the lowest registration number, “would you be happy?” Everyone looked at me. Elephant (224)

(iii)

だから百点に近い成績を取って一番になるくらい僕としては不思議でも何でもなかったんです。当然のことでした。でもみんなはびっくりしました。「沈黙」『象』(386)

So when I aced the test, it was no surprise. It was even predictable. But everyone else caught off guard. Elephant (298)

(iv)

そして何人かの男たちを押しよせながら前に出て、彼女のわきに立ち、かちんと靴のかかとをあわせて、これから踊るということをみんなに示した。「踊る小人」『象』(345)

Hardly conscious of my movements, I stood and left my table for the dance floor. Shoving my way past a number of men, I came up beside her and clicked my heels to signal to the others that I intend to dance. Elephant (261)

(v)

大抵の連中は近い場所をとる。往復の時間がかからないし、そのぶん数がこなせるのだ。僕は逆になるべく遠くの仕事を取る。いつもそうだ。それについてはみんな不思議がった。「午後の最後の芝生」『象』(359)

Most of the crew generally chose places nearby. Less time back and forth, so they could squeeze in more jobs. Me, on the other hand, I chose jobs as far away. Always. And that always puzzled everyone. Elephant (275)

(2)「見えているもの」の「部分と全体」

下を見下ろすと、水の中に海底火山の頂上が見える。「パン屋再襲撃」『象』(68)

I look down, and in the water I see the peak of a volcano thrusting up from the ocean floor. Elephant (38)

(コメント)

英文を和訳すると、「僕は下を見下ろす。そして水の中に海底から突き出している火山の頂上が見える」となる。筆者の読みでは、原文において、見えているのは「頂上とその周辺」だけ

であるが、それが海底火山の「頂上」であるとわかるためには、「頂上」が「火口」のようである、ということと、その「頂上（火口）」から下の部分が広がっていて、「山の一部」であることがわかるという状況が必要である。しかし、英訳では海底から頂上までの「全景（＝全体）」が見えているかのような訳になっている。

### 3. 「時間」

「空間」に関する「部分」と「全体」の関係は、「時間」に関しても同様である。「時間」の場合、英語ではそれ以前とのつながりが表現される場合がある。

（１）女はちらりと僕を見た。「踊る小人」『象』（345）

Again she glanced at me. (261)

（コメント）

文頭に again があるのは、この前に「彼女が踊りながらちらりと僕の顔を見た」とあるからと考えられる。

（２）そしてそこで五年ほど働いた。外国にも駐在した。「われらの時代のフォークロア」『TV』（107）

I worked there for five years, part of which took me overseas. (77)

（コメント）

「外国に駐在した」のは、五年間（全体）の一部であるので、part of が追加されている。

（３）昨日の夜まではそんなところに鏡なんてなかったのに、いつの間にか新しくとりつけられていたんだな。「鏡」『全１（５）』（77）

There wasn't a mirror there the night before, so they must have put in one between then and now.  
Blind Willow (59)

（コメント）

「いつの間にか」が between then and now（そのときと今の間に）と訳されている。「空間」の例（３）の「山の中」と同様である。

（類例）

僕はそんなざわめきにそれまでけっこううんざりさせられてきたものだが、それでもこの奇妙な静けさの中で魚を食べていると、どうも気持ちが落ちつかなかった。『ノルウェイ』（上220）  
That was just the kind of noise I had grown sick of in recent months, but sitting here and eating fish in this unnaturally quiet room, I couldn't relax. (107)

(コメント)

「それまで」が in recent months (最近の数ヶ月間) と特定のになっている。これは、「うんざりさせられてきた」のが、寮生活を始めてから、と考えられているためと思われる。

(4) 彼女は四ツ谷の駅からしばらく歩いたところにある彼女の高校の前に僕をつれていった。  
『ノルウェイ』(上124)

She took me to her old high school, a short walk from Yotsuya. (58)

(コメント)

「彼女の高校」が her old school (彼女の昔の高校) と訳され、old が追加されている。

(5) 東京に戻っても、一人で部屋の中に閉じこもって何日かを過した。僕の記憶の殆どは生者にではなく死者に結びついていた。『ノルウェイ』(下258)

Though I returned to Tokyo I did nothing for days but shut myself up in my room. My memory remained fixed on the dead rather than the living. (276)

(コメント)

「結びついていた」が remained fixed (固定されたままであった) と訳されている。物語のこの前の部分からの継続性が表されている。

(6) 短い沈黙があった。『ノルウェイ』(上253)

A short silence followed. (123)

(コメント)

「あった」が followed (後に続いた) と訳されている。

(7) これほど生命力を失った男にもきちんと髭だけははえてくるんだなどと僕は思った。  
『ノルウェイ』(下72)

So, I thought, even after so much of a his life force had been lost, a man's beard continued to grow. (181)

(コメント)

「はえてくる」が continues to grow (はえ続ける) と訳されている。何もない状態から「はえてくる」のではないからと考えられる。

(8) カー・ラジオがつけっぱなしになっていた。ワイパーにはガソリン・スタンドの領収書がはさんであった。「蛍」『蛍』(28)

The car radio was still on, a receipt from a gas station still stuck under the wiper. (237)

(コメント)

「はさんであった」が、still stuck (まだはさんであった) と訳され、時間の流れが意識されている。

(9) これは夢じゃない、と思った。私は夢から覚めたのだ。「眠り」『象』(124)

This was no longer the dream, I knew. From that I had already awakened. Elephant 82

(コメント)

「これは夢じゃない」が This was no longer the dream (これはもはや夢ではなかった) と訳され、no longer (もはや～ではない) が追加されている。これは、この部分の前に「夢だったんだ。と私は思った」とあるからと考えられる。

(類例)

ここは中野区ではありませんから。『カフカ』(上447)

I'm not in Nakano Ward anymore. (221)

(コメント)

原文にない anymore (もう) が追加され、この前の状態との比較が表されている。

(10) 私は手の指を一本また一本と動かし、次に腕を曲げてみた。それから足を動かしてみた。「眠り」『象』(126)

I moved one finger. Then another, and another, and the rest. Next, I bent my arms and then my legs. Elephant (84)

(コメント)

英文前半を和訳すると、「私は指を一本動かした。そしてもう一本、またもう一本、そして残り全部」となる。つまり、原文では表されていないが、英訳では指を順番に「全部」動かしたことになる。

(11) ボタンをはめてしまうと直子はすっと立ちあがり、静かに寝室のドアを開けてその中に消えた。『ノルウェイ』(上272)

As soon as the last button was in place, she rose and glided towards the bedroom, opened the door silently, and disappeared within. (132)

(コメント)

「ボタンをはめてしまうと」が As soon as the final button was in place (最後のボタンがきちんとなったらすぐに) と訳されているが、筆者の読みでは、原文は「いくつかあるボタンを全部はめてしまうと」である。つまり、原文の「全体」を表す表現を英訳では「部分」で訳していることになる。



(12) 「それでどうなったんですか？」と僕は訊いた。

「ああ」と老人は思い出したように言った。「革命が起り、皇帝は殺され、小人は逃げた」「踊る小人」『象』(333)

“Then what happened?” I asked.

“Then?” he said. “Then the revolution started. The king was killed, and the dwarf ran away” (252)

(コメント)

「ああ」が Then? (それで?) と訳されている。そして、「革命が起り」が Then the revolution started (そして革命が始まった) と訳され、時間の流れが表されている。

(13) 真夏のアテネというのは、実際に行かれた方はおわかりになると思うが、なにしろ想像を絶して暑い。『走ることにについて語るときに僕が語ること』(84)

As those who’ve been there know, the heat can be unbelievable. (58)

(コメント)

英文を和訳すると、「行ったことがある人はわかるでしょうが、暑さは信じられないくらいになる場合がある」となる。法助動詞 can は「…することがある」の意味で、「部分的」であるということが表されている。

(類例)

とにかく、というか、そんな具合に、僕の記憶はおそろしくあやふやである。「中国行きのスロウ・ボート」『象』(294)

Anyway—or rather, that being the case—my memory can be impressive iffy. (219)

(コメント)

「あやふやである」が can be impressive iffy (とてもあやふやになる場合がある) と訳されている。

#### 4. 「動き」「移動」「方向」

上の(3)とも関係するのであるが、原文には「動き」「移動」「方向」などが表現されていないが、英訳でそれが表されている例を挙げる。

(1) 彼女は淡い色あいの格子柄のシャツの袖を、肘のところまで折って、まくりあげていた。そしてほっそりとした白い指でコーヒー・スプーンの柄をいじりつづけていた。彼はその彼女の指先を眺めていた。じっと見てみると、意識が奇妙に平坦になった。「飛行機」『全2(1)』(47)

She had rolled up the sleeves of her pale checked shirt as far as the elbows, and her slim white

fingers toyed with the handle of her coffee spoon. He stared at the moving fingertips, and the workings of his mind went strangely flat. Blind Willow (45)

(コメント)

「指先」が the moving fingertips (動いている指先) と訳されている。

(2) 僕はまわりのそんな風景を眺めながらもう何も考えずにただ一步一步足を前に運んだ。  
『ノルウェイ』(上281)

Moving ahead one step at a time, I thought of nothing but the scene passing before my eyes.  
(137)

(コメント)

「僕はまわりのそんな風景を眺めながらもう何も考えず」が I thought of nothing but the scene passing before my eyes (目の前を通り過ぎて行く風景以外は何も考えなかった) と訳され、「風景」が the scene passing before my eyes と訳されている。

(4) 一人のおばあさんは僕の顔を見てにっこりと笑った。僕もにっこりとした。『ノルウェイ』(上136)

One of them gave me a smile. I smiled back. (64)

(コメント)

「僕もにっこりとした」を I smiled back (ほほえみ返した) と訳している。

(類例1)

でも彼はやがてカップをもとに戻した。そして、ウェイターを呼んでもういっぱいエスプレッソがほしいといった。「我らの時代のフォークロア」『全2 (1)』(87)

Finally he let go of the cup, called the waiter back over, and ordered another espresso. Blind Willow (82)

(コメント)

原文では、この部分の前で一度ウェイターを呼んでいるので、英訳では called the waiter back (呼び戻した) となっている。

(類例2)

もう十分よくしてもらったし、これ以上金までもらうわけにはいかないと断ったが、彼は金を受け取ろうとはしなかった。『ノルウェイ』(下256)

I said he had done more than enough for me and that I couldn't accept money on top of everything else, but he refused to take it back. (275)

(コメント)

「受け取る」が take it back (取り戻す) と訳されている。いったん渡したものを「受け取る」

のでこの訳になっている。

(5) 私たちここではみんな正直なの。正直にいろんなことを言うのよ『ノルウェイ』(上214)

We're honest with each other here. We tell each other all kinds of things with complete honesty. (104)

(コメント)

「私たちここではみんな正直なの」が We're honest with each other here (ここでは私たちはお互いに正直なの) と訳され、each other が追加されている。

(6) 「その子は譜面を持ってきて、弾いてみていいかって訊いたの。『ノルウェイ』(上254)  
She had brought some music with her and asked if she could play for me. (123)

(コメント)

「弾いてみていいかって訊いた」が asked if she could play for me (私のために弾いていいかって訊いた) と訳され、for me が追加されている。単に「弾く」のではなく、「私に聞いてもらうべく弾く」と表現されているのである。

(7) そして台所に立って魚のバター焼きとサラダと味噌汁をつくった。「ねじまき鳥と火曜日の女」『象』(62)

Then I step into the kitchen, panfry a piece of fish in butter, and prepare a salad and miso soup. (31)

(コメント)

「台所に立って」が step into the kitchen (台所に入って) と訳されている。「動き」というより「移動」が表されているといえる。次例も同様である。

(8) ボタンをはめてしまうと直子はすっと立ちあがり、静かに寝室のドアを開けてその中に消えた。『ノルウェイ』(上272)

As soon as the last button was in place, she rose and glided towards the bedroom, opened the door silently, and disappeared within. (132)

(コメント)

「静かに寝室のドアを開けてその中に消えた」が glided toward the bedroom, silently opened the door, and disappeared (滑るように寝室の方に行き、静かにドアを開けて、そして消えた) と訳されている。つまり、「立ち上がり」と「寝室のドアを開けて」のあいだの過程を glided toward the bedroom を追加することによって表している。

(9) 老人はそこまで話すと、手に持っていた酒のグラスをテーブルの上に置き、手の甲で口をぬぐった。それから象の形をしたライト・スタンドを指をいじった。「踊る小人」『象』(333)

At this point in his story, the old man set his glass on the table and wiped his mouth with the back of his hand, then reached out for the elephant-shaped lamp and began to fiddle with it. (251)

(コメント)

「それから象の形をしたライト・スタンドを指をいじった」が then reached out for the elephant-shaped lamp and began to fiddle with it (それから象の形をしたランプに手を伸ばし、それをいじり始めた) と訳されている。

(10) 僕は仕事場をとびだして完成象をストックしておくプールにとびこみ、中の一頭の背中にとびのって森に逃げた。その時、警官を何人か踏みつぶした。「踊る小人」『象』(349)

I ran from the shop and dove into the pool where the finished elephants are stockpiled. Clinging to the back of one, I fled into the forest, crushing several policemen on the way. (264)

(コメント)

「その時」が on the way (途中で) と訳されている。原文の「その時」を then と訳せば「時点」を表すことになるが、「森に逃げた」際の「移動中」に起ったことであることを表すために on the way と訳したと考えられる。

## 5. 「追加」

日本語では、目の前の現象だけを描写するが、同様のことが繰り返される場合、英語では「追加」であることが表現される。上の「時間」において、「過去とのつながり」が意識されるのと同様であるが、別項目でそのような例を挙げる。

(1) 僕は話したいだけ話させておいてからころあいをみてメカトール酒をおごり、ひょっとして踊る小人について何か知ってはいないだろうかと切り出してみた。「踊る小人」『象』(330)

I let him talk all he wanted, bought him another glass of Mecatol, and when the time was right asked him if, by any chance, he happened to know about a dancing dwarf. (249)

(コメント)

「メカトール酒をおごり」が bought him another glass of Mecatol (もう一杯メカトール酒をおごり) と訳されている。これは、この前の部分に「老人は(中略)メカトール酒を飲んでいった」とあるからである。つまり「追加の酒」を買ったことになる。しかし、次の参考例(1)

の場合には「追加」の意味はないが、さらに「酒をおごる」参考例（２）の場合には another が用いられる。

（参考例１）

酒を買ってくれたことでもあるし、話してやろう。「踊る小人」『象』（331）

Why not? Ya bought me a drink. (249)

（参考例２）

酒を注文してくれ。それから仕切り席に移ろう。「踊る小人」『象』（331）

Now, order me another drink, and let's go to a booth. (250)

（２）「そういう信頼感が存在する限りまずあのボンッ！は起らないのよ。」『ノルウェイ』（上247）

If we have that sense of trust, our sickness stays away. No more *snap*! (120)

（コメント）

英文を和訳すると「そういう信頼感があれば、病気は近寄ってこない。これ以上ボンッ！はない」となる。以前にも *snap* があったからである。

（３）彼女は何回か玉を撞いた。玉筋を見るときの彼女の目は真剣で、玉を衝くときの力の入れ方は正確だった」『ノルウェイ』（下135）

She made several more shots, aiming with deadly seriousness and adjusting the cue ball's speed with precision. (213)

（コメント）

「何回か玉を撞いた」が made several more shots（さらに何回か玉を撞いた）と訳され、ている。この前にも「撞いて」いるからである。

（４）「うん」といとは言った。彼が話しだすのをしばらく待っていたが、話はいつまでたっても始まらなかった。「めくら柳と」『レキシントン』（202）

"Mmm," he said. I waited for him to say more, but he didn't. (14)

（コメント）

「話しだす」とあるが、すでに「うん」と言っているので、英訳では say more（さらに話す）となっている。

（５）「だから今は何も言えないんだよ、うまく。十月になったらー」『ノルウェイ』（下250）  
"There's really nothing more I can say at this point. Maybe in October..." (272)

(コメント)

「だから今は何も言えないんだよ、うまく」が *There's really nothing more I can say at this point* (この時点で言えることは本当にもうこれ以上ない) と *more* が追加されている。ただし、先行訳の Alfred Birnbaum はこの部分を *I can't say anything now, not so it makes sense.* (II-220) (今は何も言えない、理解できるように言うことはできない) と訳している。

## 6. 「限定」

原文では表現されていないが、英訳では何らかの限定が加えられている例を挙げる。「全体」の特定の「一部分」であることが英語では表現されていると言える。

(1) 食べものならコンビニエンス・ストアで買える。『カフカ』(上17)

*I can buy food at the local convenience store.* (8)

(コメント)

「コンビニエンス・ストア」が *the local convenience store* (地元のコンビニエンス・ストア) と訳され、*local* が追加されている。

(2) 彼が心を通じ合わせることができる相手は猫だけだった。『カフカ』(上451)

*The only ones who really understood him were the cats.* (223)

(コメント)

英文を和訳すると「彼を本当に理解していたのはそれらの猫だけだった」となる。「猫」が *the cats* (それらの猫たち) と訳され、ナカタさんの周囲にいる猫に限定されている。

(3) 一ページとしてつまらないページはなかった。『ノルウェイ』(上65)

*There wasn't a boring page in the whole book.* (30)

(コメント)

英文を和訳すると、「本全体の中に退屈なページはなかった」となり、*in the whole book* によって限定が加えられている。

(4) あいつら一体何してたんだと僕は愕然として思った。『ノルウェイ』(上101)

*What the hell had they been doing behind the barricades?* (47)

(コメント)

文尾に *behind the barricades* (バリケードの後ろで) が追加され、場所が限定されている。

(5) 名前を呼ばれても僕が黙っていると、教室の中に居心地のわるい空気が流れた。『ノルウェイ』(上102)

By remaining silent when my name was called, I made everyone uncomfortable for a few seconds. (48)

(コメント)

「教室の中に居心地のわるい空気が流れた」が I made everyone uncomfortable for a few seconds (数秒間みんなを不愉快にさせた) と訳され、for a few seconds (数秒間) という時間の限定がなされている。

(6) 「そんな気がするわね、一日じっと待っていると」『ノルウェイ』(上165)

“That’s how it feels to me, waiting indoors all day.” (78)

(コメント)

「一日じっと待っていると」が waiting indoors all day と訳され indoors (室内で) が追加されている。

(7) 正面のシャッターがバットでバケツを叩いてまわるような大きな音を立てて閉まったあとも、テーブルのカップルはまだこんこんと眠りつつけていた。「パン屋再襲撃」『象』(80)  
The front shutter made a huge racket when it closed, like an empty bucket being smashed with a baseball bat, but the couple sleeping at their table was still out cloud. (47)

(コメント)

「バケツ」が an empty bucket (空のバケツ) と訳され、empty が追加されている。

(類例)

休憩時間にイタリア料理店のテーブルに向かって書いた。『ノルウェイ』(下224)

I wrote letters at empty tables during my breaks at the Italian restaurant. (258)

(コメント)

「テーブル」が empty tables (空いたテーブル) と訳され、empty が追加されている。

(8) 「鼠だって電気ショックを与えれば傷つくことの少ない道を選ぶようになる」『ノルウェイ』(下 125)

“Even a rat will choose the least painful route if you shock him enough.” (208)

(コメント)

「電気ショックを与えれば」が if you shock him enough (十分なショックを与えれば) と訳され、enough が追加されている。



(類例)

もちろん時間さえかければ僕は彼女の顔を思い出すことができる。『ノルウェイ』(上11)

True, given time enough, I can bring back her face. (5)

(コメント)

「時間さえかければ」が given time enough (十分に時間を与えられれば) と訳され、enough が追加されている。

(9) 「レイコさんは御主人や娘さんに会いに行かないんですか？東京にいるんでしょ？」『ノルウェイ』(下278)

“Aren’t you planning to see your husband or your daughter while you’re here? They must be in Tokyo somewhere.” (286)

(コメント)

英訳では while you’re here (ここにいるあいだに) や、somewhere (どこかに) を追加されている。

(10) インドの子供のこと考えてごらんさいよ。『ノルウェイ』(下68)

“Think about the children starving in India!” (179)

(コメント)

原文の「インドの子供」は、前後関係からすると、「インドの子供一般」ではなく、その一部の「食料に不自由しているインドの子供」を指している。そこで、英訳では the children starving in India (インドで飢えている子供たち) と訳され、starving が追加されている。

(11) 「あんなナメクジ三匹も飲める人間なんて俺の他には誰もいないんだ」『ノルウェイ』(上71)

I’m the only guy in this place who can swallow three slugs. (33)

(コメント)

「俺の他には誰もいない」と言った場合、「世界中に俺の他には誰もいない」と言っているのではない、ということは原文では了解されていると考えられるが、英訳では in this place (この場所 (= 寮) で) が追加されている。

(12) 「この背広を作って以来誰一人死なないんだ」と彼は言った。「ニューヨーク炭鉱の悲劇」『全1 (3)』(74)

“It’s weird, but since I bought the suit not a single person I know has died,” he explained. Blind Willow (35)

(コメント)

「誰一人死なない」とはいても、「自分が葬式に参列しなければならないような間柄の人」に関してである、ということが英訳では表されている。

(13) もう一度家にこもって司法試験の勉強をするというのはどう考えても億劫だったし、それにだいいち特に弁護士になりたいというわけでもないのだ。「ねじまき鳥と火曜日の女」『象』(36)

The idea of holing up somewhere and cramming for one more shot at the bar exam was too intimidating. And besides, I didn't even especially want to become a lawyer at that point. Elephant (11)

(コメント)

「特に弁護士になりたいというわけでもない」が I didn't even especially want to become a lawyer at that point (その時点では特に弁護士になりたいというわけではなかった) と訳されている。主人公は以前にも司法試験を受けている。訳者は、その時点では主人公は「弁護士になりたい」と思っていたと考え、法律事務所をやめた時点では「弁護士になりたいというわけでもない」ととって at that point を追加したと考えられる。

(14) バターは犬だって食べ残しそうな代物だった。「ファミリー・アフェア」『象』(215)  
Even a dog would have turned its nose up at the butter they had used. Elephant (159)

(コメント)

「バター」が the butter they had used (彼らが使ったバター) と訳されている。

(15) やがてブランディーがなくなってしまった。「眠り」『象』(146)  
Eventually, my bottle of brandy ran out. Elephant (101)

(コメント)

「ブランディー」が my bottle of brandy (私の瓶一本分のブランディー) と訳され、my bottle of が追加されている。

(16) 舞踏場からは黄色い光とオーケストラの演奏するジャンプ・ナンバーが花粉のようにまわりにこぼれ落ちていた。「踊る小人」  
From the dance hall, yellow light spilled out onto its immediate surroundings like so much pollen, and once of the orchestras was playing a jump tune. (262)

(コメント)

「まわりに」が its immediate surroundings (そのすぐ近くの周囲) と訳され、immediate が追

加されている。

(17) 妻はビールをそれほどは好まなかったので、僕は六本のうちの四本を飲み、彼女が残りの二本を飲むことになった。僕がビールを飲んでいるあいだ、彼女は十一月のリスのようにこまめに台所の棚を探しまわり、袋の底にバター・クッキーが四枚残っていたのをみつけた。「パン屋再襲撃」『象』(69)

She didn't like beer much, so we divided the cans, two for her, four for me. While I was drinking the first one, she searched the kitchen shelves like a squirrel in November. Eventually, she turned up a package that had four butter cookies in the bottom. (38)

(コメント)

「僕がビールを飲んでいるあいだ」が While I was drinking the first one (最初の一本を飲んでいるあいだに) と訳されているが、筆者の読みでは「一本目」に限定する必然性はない。

## 7. まとめ

以上のように、日本語においては、「部分」と「全体」の関係が、英語ほどはっきりと言語化されていない。そして、このことが、いわゆる「物質名詞」と呼ばれる種類の英語の名詞の一部に関する日本語話者の直感的理解を妨げているのである。

筆者はまた、「比較表現」や、英語の「冠詞」や「所有限定詞」の用法に関する日本語話者の理解にも、この違いが影響していると考えているが、これに関しては、別稿において扱う予定である。

## 引用文献

### (1) 原作

書名のあとの( )内は、本稿で用いた略。

- 村上春樹 (1987) 『ノルウェイの森』(ノルウェイ) 講談社文庫  
(2005) 『海辺のカフカ』(カフカ) 新潮文庫  
(2005) 『象の消滅』(象) 新潮社  
(1987) 『螢・納屋を焼く・その他の短編』(螢) 新潮文庫  
(2005) 『中国行きのスロウ・ボート』(中国) 中公文庫(改版)  
(2007) 『東京奇譚集』(東京) 新潮文庫  
(1993) 『TV ピーブル』(TV) 文春文庫  
(1990-91) 『村上春樹全作品1979-1989』(全1) 講談社  
(2002-3) 『村上春樹全作品1990-2000』(全2) 講談社

### (2) 英訳

書名のあとのイタリックは、本稿で用いた略。

- Haruki Murakami (1993) *The Elephant Vanishes* *Elephant* (Vintage paperback)  
(2000) *Norwegian Wood* (Vintage paperback)

(2005) *Kafka On The Shore* (Knopf)

(2006) *Blind Willow, Sleeping Woman Blind* (Vintage paperback)

#### 参考文献

塩濱久雄 (1980) ‘Countables and Uncountables’ (Kobe City University of Foreign Studies)

(1982) 「名詞の Countability について」 (神戸山手女子短期大学紀要25号)

(1990) 『『可算名詞・不可算名詞』再訪：唯脳論の観点から』 (英米文学 2 号)

(2007) 『村上春樹はどう誤訳されているか』 (若草書房)

(2007) 『ノルウェイの森を英語で読む』 (若草書房)

(2008) 『村上春樹を英語で読む』 (若草書房)